

FPC (線形代数 B) 演習 [直交行列と直交変換]

1. 直交行列. 行列 A が $A^{-1} = {}^tA$ を満たすとき直交行列という。

すなわち, 直交行列 A は ${}^tAA = A{}^tA = E$ を満たす行列である。

例 1. 原点中心の角度 θ の回転を表す行列 $R(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ について,

$$|R(\theta)| = \cos^2 \theta + \sin^2 \theta = 1 \text{ より, } R(\theta)^{-1} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -(-\sin \theta) \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

$${}^tR(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \text{ よって, } R(\theta)^{-1} = {}^tR(\theta) \text{ より, } R(\theta) \text{ は直交行列である。}$$

例えば, $E = R(0)$ (単位行列), $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} = R\left(\frac{\pi}{2}\right)$ は直交行列

[問 1] 平面上の各点を直線 $y = 2x$ に対して対称な点に写す変換は線形変換であり, それを表す行列は $R = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} -3 & 4 \\ 4 & 3 \end{pmatrix}$ である。 R が直交行列であることを示せ。

◇ 一般に, 直線 $y = ax$ に対する線対称変換は線形変換であり, 行列 $R = \frac{1}{a^2 + 1} \begin{pmatrix} 1 - a^2 & 2a \\ 2a & a^2 - 1 \end{pmatrix}$ で表される。 R は, $R^{-1} = R = {}^tR$, $|R| = -1$ を満たすので, 直交行列である。

2. 正規直交系. ベクトル v_1, v_2, \dots, v_n が正規直交系であるとは, それぞれの大きさが 1 で互いに直交することをいう。すなわち, $v_i \cdot v_j = \begin{cases} 1 & (i = j \text{ のとき}) \\ 0 & (i \neq j \text{ のとき}) \end{cases}$ が成り立つことをいう。

♣ ベクトル $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$ の内積 $x \cdot y$ は, 行列の積 txy に等しい。

すなわち, $x \cdot y = {}^txy$ が成り立つ。

♣ A が直交行列のとき, $A = (a \ b)$ と列ベクトルで表すと,

$${}^tAA = \begin{pmatrix} {}^ta \\ {}^tb \end{pmatrix} (a \ b) = \begin{pmatrix} {}^taa & {}^tab \\ {}^tba & {}^tbb \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a \cdot a & a \cdot b \\ b \cdot a & b \cdot b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} |a|^2 & a \cdot b \\ b \cdot a & |b|^2 \end{pmatrix}$$

${}^tAA = E$ より, $|a| = |b| = 1, a \cdot b = 0$ ゆえに, a, b は正規直交系である。

♣ 一般に, n 次正方行列が直交行列である必要十分条件は, n 個の列ベクトルが正規直交系であることである。

例 2. 回転行列 $R(\theta)$ の列ベクトルは $a_1 = \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}, a_2 = \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix}$ である。

$$|a_1| = |a_2| = \sqrt{\cos^2 \theta + \sin^2 \theta} = 1, \quad a_1 \cdot a_2 = (\cos \theta)(-\sin \theta) + (\sin \theta)(\cos \theta) = 0$$

よって, a_1, a_2 は正規直交系である。

[問 2] $A = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{2}} & \frac{1}{\sqrt{2}} \\ a & b \end{pmatrix}$ が直交行列であるとき, 次の box を埋めよ。

列ベクトルを a_1, a_2 とすると, 正規直交系である。

$$|a_1| = 1 \text{ より } \frac{1}{\square} + a^2 = \square, \quad |a_2| = 1 \text{ より } \frac{1}{\square} + \square^2 = 1$$

$$\therefore a = \pm \frac{1}{\square}, \quad b = \pm \frac{1}{\square}. \quad \text{また, } a_1 \cdot a_2 = \square \text{ より, } \frac{1}{\square} + ab = \square$$

$$\therefore ab = -\frac{1}{\square}. \quad \text{以上より, } (a, b) = \pm \left(\frac{1}{\square}, -\frac{1}{\square} \right)$$

[問 3] 直交行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ \frac{1}{\sqrt{2}} & 0 & \frac{1}{\sqrt{2}} \\ a & b & c \end{pmatrix}$ の a, b, c の値を求めよ。

[問 4] 直交行列 A について、次の box を埋めよ。

$${}^t A = A^{-1} \text{ より, } {}^t ({}^t A) = \boxed{} = (A^{-1})^{-1} = \left(\boxed{} \right)^{-1}$$

よって, ${}^t A$ も $\boxed{}$ (単語) で列ベクトルは正規直交系である。

ゆえに, A の行ベクトルも正規直交系である。

3. 直交変換 直交行列によって表される線形変換を直交変換という。

♣ 直交変換 f を表す直交行列を A とすると, ${}^t A A = E$ より,

$$f(\mathbf{x}) \cdot f(\mathbf{y}) = {}^t (A\mathbf{x})(A\mathbf{y}) = {}^t \mathbf{x} {}^t A A \mathbf{y} = {}^t \mathbf{x} E \mathbf{y} = {}^t \mathbf{x} \mathbf{y} = \mathbf{x} \cdot \mathbf{y}$$

よって, 直交変換は内積を変えない変換である。

[問 5] 直交変換は 2 点間の長さを変えない $|f(\mathbf{x}_1) - f(\mathbf{x}_2)| = |\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_2|$ が成り立つことを示せ。

[問 6] box を埋めよ: 直交変換 f で, \mathbf{x}, \mathbf{y} のなす角を θ_1 , $f(\mathbf{x}), f(\mathbf{y})$ のなす角を θ_2 とすると,

$$\cos \theta_1 = \frac{\mathbf{x} \cdot \boxed{}}{|\boxed{}| |\mathbf{y}|} = \frac{f(\boxed{}) \cdot f(\mathbf{y})}{|f(\mathbf{x})| |\boxed{}|} = \cos \theta_2$$

よって, $\theta_1 = \theta_2$. ゆえに, 直交変換はベクトルのなす角を変えない。

♣ 問 5, 6 から, 直交変換は 2 点間の長さやなす角度を変えないので, 図形を合同な図形に写す。

そのように, 各図形を合同な図形に写す変換を合同変換という。次が成り立つ。

命題: (1) 原点を原点に写す合同変換は直交変換である。

(2) 平面上の直交変換は,

(i) 原点中心の回転; (ii) 原点を通る直線に対する線対称変換
の 2 種類に分類される。

(3) 空間の直交変換は,

(i) 原点を通る直線を軸とする回転;
(ii) 原点を通る平面に対する面对称移動 (鏡映);
(iii) (i) と (ii) の合成変換 (回転鏡映)

の 3 種類に分類される。

[問 7] box を埋めよ: 空間で, z 軸中心の 180° 回転 f と xy 平面に対する鏡映 g は

$$f\left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} \boxed{} \\ \boxed{} \\ z \end{pmatrix}, \quad g\left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} x \\ y \\ \boxed{} \end{pmatrix} \text{ より,}$$

$$\text{回転鏡映 } (g \circ f)\left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} \boxed{} \\ \boxed{} \\ \boxed{} \end{pmatrix} \text{ は原点中心の点対称移動である}$$